

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	観光振興事業			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-12-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年	月 ~	年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	町の「稼ぐ観光」を実践するため、秋宮・春宮周辺をはじめとする各地域の観光資源を活用し、交流の活性化と滞在時間の延長を図り、地域内の消費を促進することにより、観光消費額の増大と観光事業者等と一体となった観光振興を推進する。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	観光消費額(一人当たりの消費単価:店舗等)	諏訪大社周辺活性化事業効果検証調査	円	目 標	2,400	2,700	3,000
				実 績	2,364	2,744	
				達成率	98.5%	101.6%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算		
事業費	事業費 A	90,824 千円		90,383 千円		80,714 千円		
	うち 会計年度任用職員人件費	4.17 人	11,636 千円	4.00 人	14,146 千円	5.00 人	20,904 千円	
	正規職員人件費 B	1.00 人	6,616 千円	1.00 人	6,569 千円	1.00 人	6,778 千円	
事業費合計 C (A+B)		97,440 千円		96,952 千円		87,492 千円		
財源内訳	特定財源	国の負担	378 千円		千円		1,500 千円	
		県の負担	千円		千円		千円	
		町の借入	千円		千円		千円	
		その他	404 千円		411 千円		257 千円	
		うち 使用料・手数料 D	千円		千円		千円	
一般財源 (町の負担)		96,658 千円		96,541 千円		85,735 千円		
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %		

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	C	協働を検討すべき 持続可能な観光地域づくりは、行政だけではなく、民間事業者や地域住民、観光振興局との協働が不可欠である。施設管理等を担う行政と稼ぐための施策を展開する観光振興局及び民間事業者との役割分担をより明確化していく。
公平性	A	適切である 受益者は、観光客及び観光事業者が中心となるが、観光振興の活性化により、地域住民や民間事業者が利益を享受している。まち歩き等の推進や着地型旅行商品への取り組みにより、町の賑わいの創出、地域活性化を図っている。
効率性	A	適切である 観光振興局を中心にまち歩き促進のための施策や、着地型旅行商品の旅行企画、実施をすることにより、下諏訪の旅の提案をすることが可能となっている。町への来訪する理由を高め、高付加価値な旅行商品を提案することにより、滞在時間の向上と観光消費額の拡大を図っている。
達成度	B	目標値どおりである 町観光振興計画では、令和5年度までに観光客一人あたりの消費単価3,000円を達成目標としているため、アフターコロナを見据えた各種事業を推進する必要がある。また、コロナ禍の影響による旅の環境変化を捉え、事業を推進していく必要がある。

総合評価	現状維持	令和4年度は、御柱祭が開催され一時的に来訪者が増えたものの、コロナ禍の影響は大きく地域への経済効果は限定的であった。コロナ禍においては、観光に対する大きな環境変化もあるため、これまでの観光振興を推進するだけでなく、下諏訪へ来訪するための高付加価値な旅を提案し、地域が一体となった観光地域づくりを推進していく。
	現状維持	
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	観光施設の管理			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-10-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	下諏訪町を訪れる観光客が安全安心かつ気持ちよく施設を利用し、町の魅力を体験・体感できるように観光施設等の受入環境整備を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	観光客入り込み	観光客利用統計	人	目 標	900,000	900,000	1,400,000
				実 績	858,500	1,340,000	
達成率	95.4%	148.9%					

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算		
事業費	事業費 A	67,271 千円		61,236 千円		13,781 千円		
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円	
	正規職員人件費 B	1.00 人	6,616 千円	1.00 人	6,569 千円	1.00 人	6,778 千円	
事業費合計 C (A+B)		73,887 千円		67,805 千円		20,559 千円		
財源内訳	特定財源	国の負担	千円		千円		千円	
		県の負担	14,611 千円		22,076 千円		千円	
		町の借入	32,000 千円		6,884 千円		千円	
		その他	187 千円		227 千円		74 千円	
		うち 使用料・手数料 D	87 千円		120 千円		30 千円	
一般財源 (町の負担)		27,089 千円		38,618 千円		20,485 千円		
受益者負担率 (D/C)		0.118 %		0.177 %		0.146 %		

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 本事業で管理している観光施設の大半は、公衆トイレ等であり、町での維持管理が妥当である。
公平性	B	検討の余地がある 収益を見込むことができない施設である一方で、観光客の増加等により維持費用の増加が予想される。今後、持続可能な観光地づくりをしていくためには、八島公衆トイレのようにチップ制を導入するなど、受益者による負担を求めていく取り組みも検討していく必要がある。
効率性	A	適切である 日常的な清掃業務等は、民間事業者に委託することにより、維持管理を適切に行っている。また、観光施設の設備面の見直しを定期的に行っていく。
達成度	A	目標値以上である コロナ禍が落ちつき観光事業が復活しつつあり観光入り込み客が増加した。観光施設の改修等により、お客様の満足度向上、利便性を高める取り組み及び施設の維持管理に努めている。

総合評価	現状維持	旅行者目線による観光施設の維持管理及び利便性を高める施設の運営管理を図り、観光客から選ばれる観光地となるように事業を展開する必要がある。また、各施設については収益性は低い、公益性が高い施設となることから、行政が引き続き対応していくものである。
	現状維持	
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	しもすわ今昔館おいでやの管理運営			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-14-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	その他		
事業の開始・終了	年	月 ~	年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)
根拠法令等の名称	下諏訪町観光施設に関する条例、下諏訪町観光施設に関する条例施行規則、下諏訪町埋蔵文化財センター-星ヶ塔ミュージアム条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	平成30年度にリニューアルオープンし、時計の歴史、町の文化を紹介するほか、星ヶ塔遺跡を代表する埋蔵文化財のミュージアムが併設されている。施設は、個人客から団体客まで、受け入れることができ、専門技術者による時計づくり体験といった特色あるコンテンツも実施している。町内のまち歩き観光の拠点施設として、観光活性化の拠点施設を目指し、指定管理者(下諏訪町地域開発公社)とともに管理、運営を行う。					
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	観光施設の売上額	観光施設の売上額(指定管理者制度導入後の利用者数の増加)	万円	目標	2,441	2,910
				実績	1,533	2,854
			達成率	62.8%	98.1%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	11,178 千円		10,932 千円		11,732 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,308 千円	0.50 人	3,284 千円	0.50 人	3,389 千円
事業費合計 C (A+B)		14,486 千円		14,216 千円		15,121 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		14,486 千円		14,216 千円		15,121 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性	C	協働を検討すべき 時計づくり体験や埋蔵文化財といった特色あるコンテンツ誘客を行い、町全体の観光客の呼び込みといった経済効果も期待できる施設であり、指定管理者である観光振興局の運営ノウハウが活かされている。
公平性	A	適切である 時計づくり体験を中心に収入増となっており、アフターコロナにおいても、時計づくり体験に注力し、観光客の更なる誘客促進を図る。
効率性	A	適切である 指定管理者による費用対効果を意識した事業運営を図っており、より効率的かつ柔軟な対応が可能である。
達成度	B	目標値どおりである コロナ禍においても、新たな企画商品に関連した時計づくり体験が好調で、体験者数の増加により、事業収入の増加を図るとともに、運営費の削減及び効率化に努めている。

総合評価	現状維持	他の地域では、体験できない時計づくり体験を高付加価値化することで、特色ある体験型施設として、観光客の誘致誘客を図っており、観光事業者と連携、協力による、町全体への観光消費を活性化させる。
	現状維持	
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	八島ビジターセンターあざみ館の管理運営			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-18-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	その他		
事業の開始・終了	年	月	～	年	月
根拠法令等の名称	八島ビジターセンターあざみ館条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	八島高原の観光拠点として、気持ちよく散策してもらうための各種案内や、来訪客へのおもてなしに努めるとともに、国の天然記念物に指定されている八島ヶ原湿原の貴重な自然を楽しむことができる館内展示を充実させながら、自然環境保全の推進に寄与する。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	観光客入り込み	営業報告	人	目標	25,000	20,000	30,000
				実績	16,987	22,446	
達成率	67.9%	112.2%					

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	699 千円		1,101 千円		964 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,308 千円	0.25 人	1,642 千円	0.25 人	1,695 千円
事業費合計 C (A+B)		4,007 千円		2,743 千円		2,659 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		4,007 千円		2,743 千円		2,659 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性	C	協働を検討すべき 平成18年度から指定管理者(観光協会)により運営管理している。八島高原の観光拠点のひとつであるので、引き続き指定管理者と連携して地域資源の活用や情報発信を図る。
公平性	A	適切である 受益者は主に観光客であり、平成13年度から入館料を無料として誰でも気軽に立ち寄れる施設を目指している。昆虫観察会などのガイド事業は、参加者から料金を徴収して実施している。
効率性	B	検討の余地がある コロナ禍による厳しい状況の中、最低限の人数でイベント開催も行った。しかし、物販収入等の事業収入の増加が課題であるので、新たなアイデアを検討・共有しながら効率的な運営を図る。
達成度	A	目標値以上である 令和3年度と比較するとコロナ禍による影響が減少し、2年ぶりに入館者数が2万人を上回る結果となった。令和5年度には更なる活用成果が見込まれるので、物販や事業をブラッシュアップし、訪れたい施設を目指す。

総合評価	現状維持	八島高原の来訪者に「公園の地形・地質、動植物等を利用者が容易に理解できるように解説や展示をするための施設」として、各種案内や自然環境を楽しむ提案を行う。今後も指定管理者である下諏訪観光協会と連携、協力し、事業収入の確保を図るとともに、新たな商品開発を通して、八島高原の自然を楽しむ学び機会を促進する。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	手法改善	コロナ禍による影響等により、イベントの開催や業務内容を再検討し、館内のパネル展示や八島関係の情報充実を図っている。

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	おんばしら館の管理運営			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-20-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	その他		
事業の開始・終了	平成 28 年 4 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	下諏訪町おんばしら館条例、下諏訪町おんばしら館条例施行規則				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	令和3年度より指定管理者として、(一社)下諏訪町地域開発公社が、御柱祭などの歴史文化に親しむ機会を創出し、下諏訪の文化創造に貢献する施設として運営管理をしている。春宮周辺の観光拠点として、来訪者へのご案内を行うとともに、知名度の高い御柱祭を活用した、御柱祭を体感できる施設として、来訪者の増加を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	観光施設の売上額	観光施設の売上額(指定管理者制度導入後の利用者数の増加)	万円	目標	500	850	500
				実績	329	832	
達成率	65.8%	97.9%					

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度予算	
事業費	事業費 A	3,697 千円	3,945 千円	4,225 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人 千円	人 千円	人 千円	
	正規職員人件費 B	0.25 人 1,654 千円	0.25 人 1,642 千円	0.25 人 1,695 千円	
事業費合計 C (A+B)		5,351 千円	5,587 千円	5,920 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	60 千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	60 千円
一般財源 (町の負担)		5,351 千円	5,587 千円	5,860 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	1.014 %	

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C 協働を検討すべき	平成28年度に開館し、町が運営してきたが、令和3年度からは指定管理者(観光振興局)が運営管理をしており、指定管理者と連携し事業を推進する。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	直接的な受益者は、観光客であるが、春宮周辺を含む周遊観光やイベント等、地域住民が集える公園もあり、地域住民も受益者となる。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	運営は、指定管理者となるが、施設設備の保守等は適切な事業者へ業務を委託しており、効率的に行われている。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B 目標値どおりである	御柱祭の開催年ということもあり、観光客の誘致誘客に努め、指定管理者とともに事業を推進することにより、目標に近い収益確保ができたと考えている。

総合評価	現状維持	令和3年度から指定管理者制度を導入し、(一社)下諏訪町地域開発公社が運営管理を実施しており、しもすわ今昔館との連携、協力や、企画展の開催などによる誘致誘客に努め、コロナ禍により流動的であるものの事業収入の確保に努めている。
	現状維持	
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	(新)観光支援緊急対策事業				担当課名	産業振興課
(予算書コード)					07-01-03-38-01	
事業区分	単年度予算	運営方法	補助			
事業の開始・終了	令和 4 年 6 月 ~ 令和 5 年 2 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)					
根拠法令等の名称						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	長期化する新型コロナウイルス感染症の影響による宿泊需要低迷を打開するため、国県が実施する宿泊割キャンペーン等とは別に、町独自の宿泊割引キャンペーンを実施することにより、宿泊需要を喚起し、観光消費を促す。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	宿泊割利用者数	観光消費拡大キャンペーン事業(下諏訪宿泊割)の利用者数	人	目 標		3,200	
				実 績		3,559	
			達成率		111.2%		

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度予算	
事業費	事業費 A	千円	27,250 千円	千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	人	人	
	正規職員人件費 B	0 千円	1,971 千円	0 千円	
事業費合計 C (A+B)		0 千円	29,221 千円	0 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	13,082 千円	千円
		県の負担	千円	14,168 千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	
一般財源 (町の負担)		0 千円	1,971 千円	0 千円	
受益者負担率 (D/C)		%	0 %	%	

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき 事業を迅速に遂行するため、前年度に実績がある(一社)下諏訪町地域開発公社 観光振興局に補助することで、観光宿泊キャンペーンを実施した。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である 直接的な受益者は、観光客であるものの、コロナ禍の影響が大きい宿泊事業者等への直接的な支援を実施した。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である (一社)下諏訪町地域開発公社 観光振興局が中心となり、情報発信を含め迅速かつ適切な事業推進を図った。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	A	目標値以上である 国や県の宿泊割キャンペーンが流動的であったが、町独自のキャンペーンを展開することにより、宿泊割利用者数は、想定を超える実績となった。

総合評価	廃止	長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊需要の減少が想定されたものの、本事業を有効に活用する宿泊事業者が多く、有効であったと考える。今後は、補助金での支援ではなく、宿泊需要の獲得及び観光復活に向けた本格的な取り組みが必要となるため、本事業は廃止とする。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)		